

支部会報告

東日本支部会の報告

支部長 玉元弘次（1期生）

平成27年6月21日に東日本支部同窓会がミヤリサン講堂にて開催されました。

今年は同窓会本部からは同窓会会長の蔵下要先生（3期生）がお見えになりました。

講演では現在の医学部と付属病院に関する情報を教えていただきました。また西普天間地区への移転の予定も聞かされました。医学部の最近の姿を見てはいませんが話を聞くにつれ、昔が走馬灯のように思い浮かべられました。

昨年は麻酔科に垣花教授が就任されたとの話で安堵した思いがありました。今年はそのことを人一倍危惧されておられました岩永正明先生がお見えになりました。これからも同窓会から多くの教授が生まれることを信じております。また一昨年に引き続き寺嶋眞一先生もいらっしやいました。个性的なお姿は30年近く経っても変わりありませんでした。

この記事を書くのが遅くなってしまい、いつも事務局の上原さんには迷惑をかけています。私自身のことですが62万都市の船橋市医師会会長になって1年と半年が過ぎました。8年前に医師会理事を始めた時は少しのお手伝いと考えていただけでしたが2年後に副会長をやることになり、またその4年後には会長と信じがたいペースで時が過ぎ去って行きました。その間、自分の組織は診療所、介護老人保健施設の二つの施設から有料老人ホーム、デイサービスセンター、グループホームそして今年はついに特別養護老人ホームまでを運営するようになりました。公私共々忙しい日々を送っていますが、見知らぬ千葉の北総地域で一代で築き上げた組織に対する思いは沖縄出身で琉球大学医学科1期生としての自分自身を鼓舞することに行き着きます。

現在、世間では介護保険制度の限界を表すかのように「地域包括ケアシステム」というボトムアップの仕組みを各々の地域で作ることが厚労省からトップダウンで求められています。実際のところ非常に困難な仕組みです。確かに「地域包括ケアシステム」が確立できなければ介護難民が増えることは容易に想像できますし、このままでは関東の都県は介護資源が足りなくなることが日本創世会議の提言の中にも示されています。船橋市では「地域包括ケアシステム」を作り上げる活動を医師会が中心となり行政や他職種団体とともに行っています。うまくいくかどうかはわかりませんがみんなが頑張っていることは確かです。全国に誇れるものができればと考えていますが困難な壁があります。それは介護の人材が大幅に不足していることです。

沖縄県の介護事情の知識は持ち合わせていませんが千葉県をはじめとして東京都以外の関東では医療介護の人材が不足しています。今後、沖縄県と連携が取れば光が見えるかもしれないと勝手に想像するこの頃です。琉球大学医学部医学科同窓会がその一翼を担っていただけると幸いです。

少し個人的な文章になってしまいましたが今後ともよろしく願い申し上げます。



第2回佐賀支部会の報告

支部長 吉武秀範（1期生）

第2回琉球大学医学部佐賀支部の同窓会を、10月24日佐賀市内の沖縄料理店で開催しました。当日は長崎から1期生の土屋先生、古賀先生が参加してくれました。同窓会では、同期でも学生時代はあまり話を交わしたことがない先生方や卒業期が違う先生方とも、昔ながらの知己のように会話が弾むことができます。また、医療の世界は結構狭いようで、共通の友人に行き着く時が多々あります。今回は少人数ながら、却って共通の話題で皆で歓談することができ好評でした。佐賀は同窓生が少ない県ですが、その分家庭的な雰囲気があります。今後も他県の同窓生の協力を得ながら、和気合い合いの支部会を続けていきたいと思っております。

